

D Xへの取り組み

2023年5月29日

株式会社システムベース

代表取締役社長 折笠 英輝

1. ビジョン・ビジネスモデル

<デジタル技術による社会及び競争環境の変化の影響>

グローバル化の進展に伴い、企業活動におけるタイムリーな意思決定を求められる現代。意思決定のための知識、情報収集、分析を補助するデジタル技術の重要性はますます上がってきます。

また、デジタル技術を導入することにより、生活スタイルや事業スタイルの変革がもたらされ、以前は考えられなかった新たなビジネスモデルを創出することが必要となってきました。

これは、地方都市においても例外ではなく、さらに、労働力人口減少を主要因とした生産性の向上は多くの企業の喫緊の課題となっており、スピード感をもってデジタル技術活用に取り組んでいかなければ、企業競争力が減衰していきます。

<経営ビジョン>

システムベースは、これまでもお客様の情報化ニーズに対し、様々なICT技術による解決策をご提供して参りました。

今後のデジタル化社会においても、お客様の経営課題に対し、デジタル技術をツールとするソリューションを提供し続けることで、お客様のDX化をご支援するDXサプライヤーとして活動して参ります。

＜ビジネスモデルの方向性＞

システムベースはデジタル技術を活用し以下の課題を解決することで、継続的に企業価値を高めていきます。

- ・お客様のニーズを的確に把握し、確実かつスピーディーに解決策を提供できること
- ・新たなニーズを発掘し、業績拡大に資すること
- ・人件費を含めたトータルコストが最小になるよう業務改善を行うこと
- ・社内の各種業務システムを有機的に結合し、経営意思決定に有効な情報を参照できること

2.戦略

システムベースは以下の取り組みによって、ビジネスモデルを実現していきます。

- (1) お客様のニーズを的確に把握し、この情報を社内関連部署に確実に伝達するためにSFAを有効活用します。
- (2) お客様のDX化支援に向けて、DXソリューションの品揃えを拡充します。このために、自社製品だけでなく各メーカー様と協業し、最適な製品を提供して参ります。
- (3) デジタルマーケティングを活用したインサイドセールスの比重を増やし、商圏の拡大、扱い商品の拡大を図ります。
- (4) 社内の各種業務システムを継続的に改善し、事務処理の効率化を進めます。
- (5) 社内の情報共有を確実にするためにグループウェア・ワークフロー等を有効活用します。

2-1. 組織づくり・人材・企業文化に関する方策

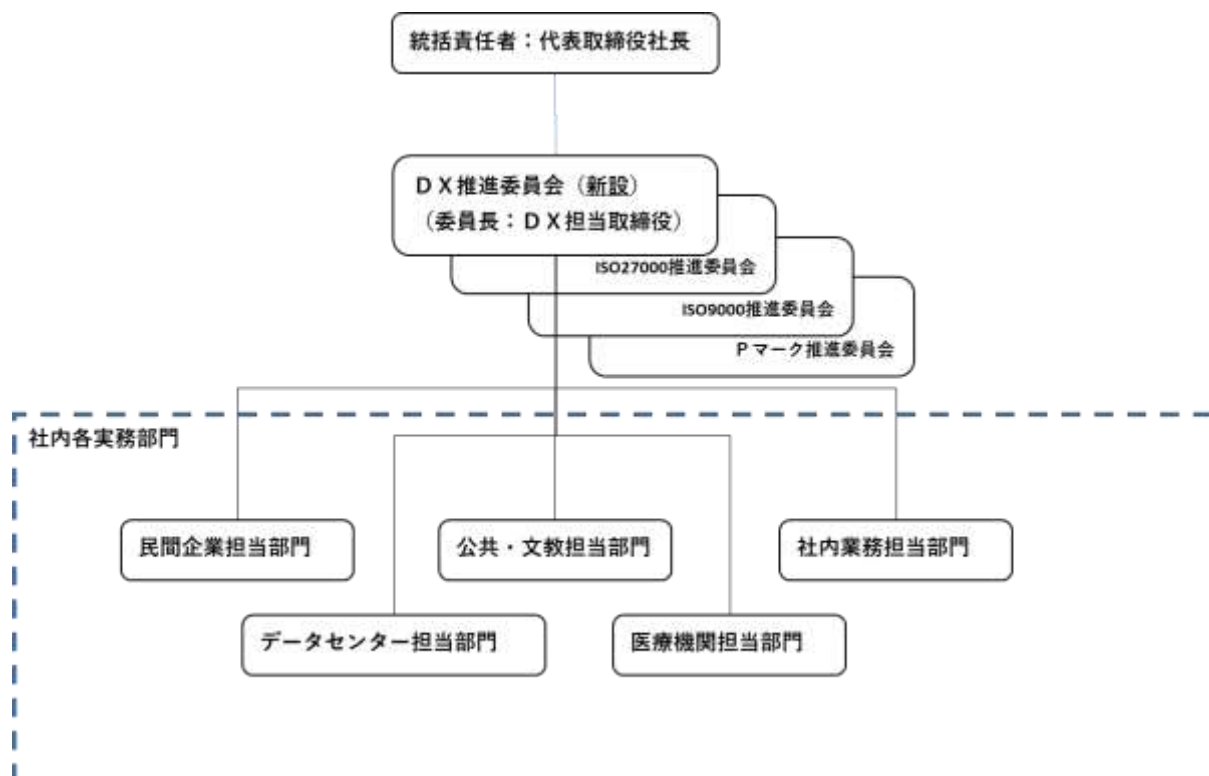
＜戦略推進のための体制＞

代表取締役社長が実務執行総括責任者となりDXへ向けて取り組みます。

また、D X戦略を立案・推進するために、取締役の中からD X担当を指名し、この下にD X推進委員会を設置します。

この委員会は社内各部門から選任されたメンバーからなり、全社横断的な取り組みを実施します。

取り組み状況は随時当社経営会議にて経営層に報告されます。



<戦略推進のための人材育成>

- ・全社員に向け、基礎的なI Tスキルを身につけるための情報処理技術者試験（経済産業省）受験を推奨しており、受験費用補助、合格一時金等でバックアップしています
- ・若手・中堅社員を対象にe-Learningを活用した教育制度を充実させます。I T関連だけでなく、ビジネス全般に対応するスキル向上を目指し、お客様へのD X提案や社内業務改善ができる人材育成に注力して参ります。

2-2. IT システム・デジタル技術活用環境の整備に関する方策

戦略の推進に必要な IT システム・デジタル技術活用環境の整備に向け継続的な投資を推進します。

主な投資分野

- ・S F Aの機能強化
- ・先端 ICT 技術の応用開発
- ・インサイドセールスのためのデジタルマーケティング
- ・グループウェアの機能強化
- ・社内の各種業務システムの継続的改善（R P A 検討も含む）
- ・社内 I T インフラ整備

3. 成果と重要な成果指標

システムベースは DX 戦略の達成度を公表するため、以下の DX 戦略達成指標を用います。

- (1) S F A 機能強化(2025 年 3 月予定) 進捗状況、S F A 有効活用のための活動状況(ノウハウ共有のための勉強会開催等)
- (2) ホームページへ D X ソリューション掲載件数
- (3) インサイドセールスによる受注件数割合
- (4) 社内業務の改善状況

システムベースはこれらの取り組みにより、D X 戦略による企業価値向上に向け実践していきます。

以上